

だから職員が辞めていく ダメな施設を選ばないために 5

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-09-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡田, 耕一郎, 岡田, 浩子 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/217



だから職員が辞めていく

ダメな施設を選ばないために

今回は、就職先として老人ホームを選ぶ際のチェックポイントとして介護サービス組織に目を向けてみることにしよう。小集団型のユニットケア組織が普及した結果、現場の混乱に拍車をかけることになってしまったのは残念であるが、ぜひがんばりにくい職場であることが分かっただけでもよかったと思う。

全室個室・ユニットケアは、このままいくと、わが国の介護の歴史の中で悪名高い天井式リフト、回廊式廊下とならんで三大駄作になると言ってもよい。他の2つよりも、より介護現場に踏み込んでいるので、介護職員からは最悪の呼び声も高い。

果たして、全室個室・ユニットケアは現場の職員が希望したところなのだろうか。全室個室の是非を議論していた当時のことを思い起こすと、高齢者は一人が一人もいれば、一人では不安だという人もいるの

で、全室個室がベストの選択肢なのではなく、そんな高齢者一人ひとりのニーズをききとらずに、自由に個室が相部屋を選択できる施設が「一番」という意見があった。全室個室・

そもそもユニットケアの本場であるスウェーデンで

経営者としての経験が豊富な岡田耕一郎(おくだこういちろう)は、日本の介護現場の2〜3倍程度の、大量の職員を雇用し、しかもその職員は通常一カ月の夏期休暇をとってリフレッシュしている。精神的に余裕もある。それに対して、日本では3分の1程度の職員が、長期間の休暇も取れず、決められた時間に仕事は終わらないのでサービス残業を強いられ、精神的にも肉体的にも、ぎりぎりの状態で現場を回している。日本でもスウェーデンのよ

うにもっと職員を増やせばよいのだが、職員増はそのまま人件費増になり、施設側に支払う介護報酬を大幅に増やさなければならぬ。そのため最終的に国民の費用負担が増えることになる。

つまり、ユニットケア施設は職員の数を増やさなければうまく動かない仕組みであるにもかかわらず、職員の数を増やせないので、職員は理想と現実との狭間で日々押しつぶされているわけだ。

しかも、このユニットケアは、スウェーデンの研究

者によると、初期の痴呆に

社人す帖著『老トスの手』出版。岡田浩子(おかだひろこ)は、社人す帖著『老トスの手』出版。

は効果があるが、それよりも重い痴呆の利用者に対しては十分な効果がないということだ。

現在、日本の老人ホームに入るのは、認知症の程度が軽い人は少なく、寝たきりの人も増えているため、現実的に、この新しい介護はあまり意味がない。介護職員は大して効果がないことに専門職としての人生を賭けていたことに気がつき、だまされたと感じて精神的なダメージを受ける人もいる。

さらに未熟練のパート職員の割合がかなり多くなり、日中、現場を守る職員の数は1〜2人と少なく、その1人が新入職員であったりと、専門職として成長する職場としてはあまりにお粗末である点も無視できない。

最後に、ユニットケア施設を就職先として考えた場合、最も致命的なのは「柔軟性に乏しい組織」であることである。その昔から介護保険制度になるまで、わが国の介護の先人たちはこの「柔軟性」ということ

にこだわってきた。介護現場では、職員が退職したり、病気などで欠勤したりすると、勤務シフトを組み直して別の職員に出動してもら

わなければならない。最も基本的な三大介護をまともに提供するためのために、職員のやりくりには必死になっ

ていた状況があった。介護の先人たちはこれを避けられない事実として受け止めて、厳しい環境の中でどうすれば少しでも介護の質を上げることができるのか常に心を砕いてきた。そこで生まれた発想が「柔軟性」である。介護現場は絶えず変化にさらされるので、その変化に耐えられるように介護組織は柔軟性のあるものに設計しなければならぬと考えたのだ。

このような観点からユニットケア施設をみると、慢性的に人は不足気味で、職員は他の職員の退職、欠勤におびえ、日勤帯でもペテランの職員が新人の面倒を十分に見ることはできず、利用者はずっとユニットに放置されている。介護サービスの質は上がったり、下がったりとジェットコースターのように不安定であり、そこで働く職員は、絶えずさまざまなトラブルが発生し、職員間の人間関係がうまくいかなくなり、また利用者との信頼関係を築くことも難しく、介護の専門職として自信を持って安心して働くことはほとんどできない。

ユニットケア施設は、常識的に考えて、働きやすい職場になっているとはいえず、ひどく「硬直的」なものになっている。先人たちがおそれていた悪夢が、今、日本中に蔓延しようとしている。

「小集団型のユニットケア組織」

ポイント④ チェックポイント